

事項	屏風山地域におけるハウスを利用したそらまめの6月どり栽培																	
ねらい	<p>屏風山地域は砂土という土壌条件から、パイプハウスで栽培される品目は、すいか、メロンに偏重しており、新しい品目の導入が望まれている。</p> <p>このため、ハウスを利用したそらまめの秋・春まき栽培について検討したところ6月どりが可能であることが明らかになったので参考に供する。</p>																	
指導参考内容	<p>1 そらまめハウス栽培の作型</p> <table border="1" data-bbox="323 506 1142 842"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>は種期</th> <th>定植期</th> <th>開花始め</th> <th>収穫期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秋まき栽培</td> <td>10月上旬</td> <td>10月下旬</td> <td>4月上旬</td> <td>6月上～中旬</td> </tr> <tr> <td>春まき栽培</td> <td>2月下旬</td> <td>3月下旬</td> <td>5月上旬</td> <td>6月下～7月上旬</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 ハウス栽培の要点</p> <p>(1) 市販品種（ハウス陵西、打越一寸等）の栽培が可能である。</p> <p>(2) ポット又は45～72穴セルトレイには種し、出芽までは16～20℃で管理する。出芽後は無加温で育苗し、2～3葉苗を定植する。</p> <p>(3) 開花期以降の高温障害(落花、結実不良等)を避けるため、地温低下マルチを使用する。</p> <p>(4) 秋まき栽培では、基肥は肥効調節型肥料(ロング140日タイプ)で窒素1.9kg/aとし、開花期以降の草勢をみながら液肥で2～3回(1回当たり窒素0.3kg/a)追肥する。</p> <p>(5) 春まき栽培では、全量基肥体系と追肥体系で差がみられないため全量基肥体系(CDU窒素1.2kg/a+ロング70日タイプ 窒素0.9kg/a)とする。</p> <p>3 収量性</p> <p>(1) 総収量は120kg/a程度が確保でき、県外主要産地の平均収量(90.8kg/a、平成8年野菜生産状況表式調査結果)以上の収量性が期待できる。</p> <p>(2) 2粒莢以上の割合は総収量の50～70%である。</p> <p>4 栽培上の留意点</p> <p>(1) 開花～結実期のハウス内温度が25℃(結実限界温度)を超えないように管理する。</p> <p>(2) かん水はチューブで行い、特に開花期以降は乾燥しないように管理する。</p> <p>(3) 管理・収穫作業等の面から、2条植えよりも1条植えが適する。</p> <p>(4) 開花期前までに茎数を8本程度とし、その後、新たに発生する分枝は随時取り除く。</p> <p>(5) 開花直後に、一節当たり一花に摘花すると良品率が高まる。</p>			作型	は種期	定植期	開花始め	収穫期間	秋まき栽培	10月上旬	10月下旬	4月上旬	6月上～中旬	春まき栽培	2月下旬	3月下旬	5月上旬	6月下～7月上旬
作型	は種期	定植期	開花始め	収穫期間														
秋まき栽培	10月上旬	10月下旬	4月上旬	6月上～中旬														
春まき栽培	2月下旬	3月下旬	5月上旬	6月下～7月上旬														
期待される効果	新しくそらまめが導入され、ハウスの有効利用が図られる。																	
利用上の注意事項																		
担当	青森県農林総合研究センター 砂丘研究部	対象地域	屏風山地域															
発表文献等	<p>平成14年度 青森県農業試験場試験成績概要集</p> <p>平成15年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集</p>																	

【根拠となった主要な試験結果】

表1 そらまめハウス栽培の作型

(平成14～15年 青森農林総研砂丘)

作型	は種期	定植日	開花期間	収穫期間
秋まき栽培	10月11日	10月31日	4月1日～28日	6月6日～12日
	└ 20日	└└ 152日	└└ 66日	└
春まき栽培	2月21日	3月20日	5月1日～20日	6月21日～7月4日
	└ 27日	└└ 41日	└└ 51日	└

表2 秋まき栽培における生育・収量

(平成15年 青森農林総研砂丘)

10月31日	3月13日		4月11日		5月31日		3、4粒 莢重 (kg/a)	2粒 莢重 (kg/a)	総収量 (kg/a)	子実の障害(%)	
草丈 (cm)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)				皮切れ	しみ症
11.1	19.6	9.9	59.4	8.5	119.5	8.5	17.2	40.6	119	4.5	3.3

- (注) 1 表中の値は全量基肥体系と追肥体系(耕種概要参照)の平均値  
 2 皮切れ: 子実生育途中の水分ストレス症状  
 3 しみ症: Ca欠乏による種子しみ様褐変症状  
 4 耕種概要  
 (1) 供試品種: 「打越一寸」  
 (2) 栽植距離: うね幅120cm、株間40cm、1条植え(238株/a)  
 (3) マルチ: アルミ蒸着フィルム使用  
 (4) かん水: チューブかん水  
 (5) 育苗条件: 72穴セルで育苗(市販育苗用培土使用、出芽まで16～20℃で管理、出芽後無加温)  
 (6) 苗質: 2～3葉苗を定植  
 (7) 施肥量: 全量基肥体系(ロング180日 窒素2.5kg/a)  
 追肥体系(ロング140日 窒素1.9kg/a+液肥 窒素0.3kg/a 2回)  
 (8) 茎数: 8本/株  
 (9) 摘花: 開花直後に一節当たり一花に摘花

表3 春まき栽培における生育・収量

(平成14年 青森農林総研砂丘)

項目	成苗率 (%)	4月24日	6月21日		3、4粒 莢重 (kg/a)	2粒 莢重 (kg/a)	総収量 (kg/a)	子実の障害(%)	
		草丈 (cm)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)				皮切れ	しみ症
試験1(品種) ハウス陵西 打越一寸	-	37.9	164	9.2	63.6	80.6	199	5.9	3.4
	-	36.8	165	9.2	60.6	76.0	192	3.7	3.1
試験2(育苗) セルトレイ ポリポット	96.9	38.2	158	9.4	56.6	67.1	183	3.3	0.3
	92.2	38.9	157	9.4	47.1	78.8	188	6.1	3.2

- (注) 1 試験1の数値はL<sub>16</sub>直交表による解析値  
 (要因: 施肥法4水準、品種2水準、マルチ資材2水準、葉面散布2水準、定植葉齢2水準)  
 下記の施肥水準では収量差はみられなかった  
 ①CDU 窒素1.2kg/a+ロング70日 窒素0.9kg/a(全量基肥標準区)  
 ②CDU 窒素1.2kg/a+ロングシヨウカル70日 窒素0.9kg/a(全量基肥+Ca区)  
 ③CDU 窒素1.2kg/a+ロング70日 窒素1.4kg/a(全量基肥多肥区)  
 ④CDU 窒素0.9kg/a+追肥(液肥使用) 窒素0.3kg/a×3回  
 2 試験2: セルトレイは45穴、ポリポットは9cm、2～3葉苗を定植、施肥は液肥による追肥体系(CDU 窒素0.9kg/a+追肥 窒素0.3kg/a×3回)  
 3 栽植距離: うね幅180cm、株間40cm、2条植え(278株/a)(試験1、2とも)